



で き こ と

平成23年6月16日(木)、当館で平成23年度公立図書館等職員専門研修「児童・青少年サービス研修」が開催されました。

午前中はフェリス女学院大学教授の藤本朝巳(ともみ)氏に「昔話とその語りローイギリスの昔話を題材に」と題してお話しいただきました。

昔話の構造、日本とイギリスの昔話の共通点、Fairy Tale(フェアリーテイル)という語の意味、イギリスという国の成り立ちや、地域の歴史を踏まえた特徴を挙げ、物語によって昔の人のメッセージが伝えられていく、物語には生きる上で大切な人としての徳、愛、智慧が込められていると解説されました。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

午後は、当館講堂にて、「子ども図書研究室講演会」が開催されました。白百合女子大学非常勤講師の藤井いづみ氏をお迎えして、『子どもと昔話』というテーマでお話しいただきました。現代の語り手として長年活動されてきたから気づくことができたこと、子どもにとっての昔話の意義を伝えられました。

また、講演の中では、実際に昔話や伝説などを語っていただきました。とても素敵な声でいらして、昔話を聞いてもらいたい、楽しんでもらいたいという気持ちがこもったお話を聞くことができました。昔話の良さを、解説だけでなく、改めて心で感じる事ができた講演会でした。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

◇子ども図書研究室のテーマ展示◇

◆「実りの本」

くだものや木の実など、秋の実りに関する本を集めました。

◆「ポルトガル語の絵本」

ポルトガル語の絵本を、日本語版のあるものは日本語版も一緒に展示しています。

◇イベント情報◇

◆平成23年度第19回静岡県図書館大会

会 場：静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ

日 時：平成23年10月24日(月)
9:50~15:45

申込み：申込用紙(県立中央図書館ホームページからプリントアウト・県内公共図書館で配布)に記入の上、来館、郵送またはFAXで

宛 先：静岡県立中央図書館企画振興課振興係
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1
FAX：054-264-4268

締 切：平成23年9月30日(金)

◆子どもの本に関する分科会

：13:30~15:30

◇第2分科会

《乳幼児・児童・YAに対するサービス》
テーマ：「いま、あらためて乳幼児サービスを考える～ブックスタートの意義の確認と、図書館の乳幼児サービスへの繋げ方について～」

講 師：辰巳なお子氏(元浜松市立中央図書館長・元浜松市こども家庭部長)

◇第3分科会《子どもと読書》

テーマ：「奥本大三郎氏講演会～ファール昆虫記の世界～」

講 師：奥本大三郎氏(ファール昆虫館「虫の詩人の館」館長・大阪芸術大学芸術学部教授)

◇第6分科会《学校図書館》

テーマ：「学校図書館から学びを広げる～様々な交流から生まれる学びの可能性～」

講 師：福田孝子氏(三郷市教育委員会・読書活動支援員)
永田研氏(静岡市立末広中学校長)

公立図書館等職員専門研修会 児童・青少年サービス研修 報告

幼い頃、樵（きこり）さんや馬車を操る方たちに昔話をせがんで、こぶとりじいさんの話や地域に伝わる話を聞いたという講師の藤本朝巳氏は、ご自身の出身地熊本のイントネーションを大切にしていच्छいます。今でもその時に聞いた方言のゆったりしたリズムを覚えているとのこと。この日も、それらを生かして昔話「絵すがた女房」を語っていただきました。



昔話は、「むかしむかしあるところに」という始め（起こし）の言葉ではじまり、お話は「～とさ」「～げな」「～そうな」というまた聞きであることを示す言葉が用いられ、「めでたしめでたし」「とっぴんぱらりのぷ」というような、一定の独特な終わり（閉め）の言葉で終わるとい形式があります。始めの言葉は入り口で、お話の本体があり、終わりの言葉は出口だと考えると、その場の作り方が大切だと言われるのもうなずけます。

よい昔話の文体は、聞く人が絵をありありと思い浮かべられる文体だと言われますが、語る側の人も、映像（イメージ）を思い浮かべながら語るのが大切でしょう。

このような昔話は繰り返し口から耳へと語られるうちに、だんだんと骨組みや構造が決まっていたと考えられますが、「困ったことがあって、それが解決して終わる」という内容が、繰り返して登場する話が多いのです。

「絵すがた女房」で例えてみます。

- 1) 欠 乏 若者は独り者でなまけもの
- 2) 来 訪 美しい娘が訪ねてくる
若者は娘を女房にする
- 3) 試練① 若者は女房に働くように言う
若者は働くようになる⇒①に合格
試練② 若者が女房と離れていると寂しさを感じる
女房は自分の絵を描いて渡す

若者は女房の絵を見て働く
⇒試練②の克服

- 4) 欠 乏 女房が殿様のところに連れていかれる⇒女房は策略をたてる
- 5) 試練③ 女房が渡した桃の種を植え育てて桃の実を殿様の屋敷に売りに行く
⇒3年がかりの仕事をやり遂げる
桃売り姿の若者は屋敷に招かれ、殿様と衣装を取りかえる
女房は桃売りの恰好をした殿様を屋敷から追い出す
⇒女房の策略どおりに事が運ぶ
- 6) 帰 還 若者は女房を取り戻す
豊かになって暮らす

こう考えると、この話は「困ったことを解決しながら若者が成長する話」とまとめることができます。

昔話の語り口は世界中みんな似ていて、始めと終わりの言葉の他に、極端な語り方（若者はたいしたなまけもの）や抽象的な言い方（どのように○○か、と具体的には説明しない）、状況の一致（なくなった絵が殿の家来に拾われ絵に描かれた美女を探すと若者の妻が見つかる）など共通点があります。



この後、イギリスについて、イギリスの昔話の特徴などを詳しくお話しくささいました。

所蔵資料から

研究

『日本の昔話1 はなさかじい』



おざわ としお／再話
福音館書店
1995年10月

四季の作業・行事を中心に展開していく日本の昔話。シリーズ第1巻には、藤本先生が講演で語られた「絵すがた女房」のほか、正月から春にまつわる昔話が収められている。

(杉田)

子ども図書研究室講演会 報告

子ども時代に語りをしてもらった経験から昔話の良さを感じていた藤井いづみ氏。そこから、家で子どもたちに語りたい、子ども達と密接な関係を作りたいと、自宅に「まめの木文庫」を開設されました。今年で19年になるという藤井氏だからこそその重みのあるお話をいただきました。

藤井氏は、自分は“研究者”ではなく“語り手”であるとおっしゃられた上で、昔話の特徴、良さを良く理解してお話を選び、しっかり覚えて語りましょうと始められました。

昔話の特徴、構造パターン、昔話の種類、昔話と伝説、神話、民話との違い、などを解説されました。また、耳で聞くからこそその良い点を挙げられ、実際に昔話「とりのみじい」と地元（茨城県つくば市）の伝説「こわ清水」を語ってくださいました。

昔話を子どもがどう聞いているのかという点についてお話しいただき、子どもは主人公になって聞いている。だから面白いと感じる事ができると解説されました。

昔話が敬遠されてしまう一番の要素でもある残酷なシーン、描写についても触れられ、昔話には必要な時にしか出てこないもの。残酷なようであるが、リアルではない。このようなシーンを意図的に抜き取ってしまえば子どもたちはヘンと思うでしょう。残酷なシーンはあるけれど、主人公の幸せが保証されたお話を語ってください。めでたし、めでたしのお話以外は、話し手、聞き手の関係がしっかりしていないと難しいともおっしゃっていました。

また、昔話の中にとっても悪い人が登場してることがあるが、悪い人というのは自分の一部でもある。しかし、「むかしこっくり」で元に戻ることができる。昔話は、“むかしあるところに”

から始まり“むかしこっくり”で終わる枠で囲まれているものだとのことでした。

東日本大震災での体験もお話しいただき、地震直後、予定していたお話を中止しようとも考えていた中、多くの方から文庫への心配の声や“お話をやって欲しい”という声をいただいたとのエピソードには、お話し、昔話の力を感じました。

そして、子どもが抱えている、でも口にできない問題—兄弟のことや死に対する不安、依存心など—も、昔話を聞いて向き合うことができる。だからこそ、お話は幸せで終わるモノを。子どもは希望を持つことができると語られました。

まとめとして、昔話は子どもに生きることの意味を教えてくれる。今は無理でもいつか自分は貢献できる人になるのだ、自分が生きていることに意味を見いだせるようになる。昔話には昔の知恵が詰まっていて、人生とはこういうものだ、事実ではなく真実を見つけていきなさいと伝えているとのことでした。

“文庫内で子どもたちに「頑張れ」とか「しっかり！」などと声をかけることはないけれど、昔話を聞いて元気になっていく子どもの姿を見る”というお話は、昔話の本質を表していると感じるものでした。

所蔵資料から

研究

『子どもにとどく語りを』



藤井いづみ／著

小澤昔ばなし研究所

2008年11月

著者の長い経験の中で培われた語りのヒントがたくさんあります。お話の覚え方、語り方、語る時のポイントも挙げられ、この1冊があれば昔話も上手に語るができそうです。

(青山)

新着資料から

知識

『土の色って、どんな色？』



栗田 宏一／[著]
福音館書店
2011年5月

ひと口に“土”と言っても、土地によってその色あいが違うことを改めて思い起こす。土の採取最中の写真と、その採取した土の写真だけに、色々な事を語りかけている。終始、土の写真だけであるが、土の美しさ、色の多様性を感じてほしい。そして、そこから色と自然環境の関係についても考えてみたい。結論のようなものはないが、多くの思いが詰まっている作品である。それぞれの土地の歴史にまで思いをはせるような詩的な文章も良い。【小学校中学年から】 (青山)

知識

『ふしぎ?おどろき!文字の本』

全3巻



町田 和彦／監修
ポプラ社
2011年3月

第1巻は日本の文字（漢字からひらがなができるまで）第2巻は世界の文字（いろいろなアルファベット）第3巻は古代の文字（くさび形文字・ヒエログリフ）をテーマにしている。それぞれの文字については見開きで説明されているので調べやすく、文字の歴史の変遷や分布を知りたい場合には始めから読んでいける造りになっている。端折った大まかな説明でなく、かなり専門的な事柄までしっかりと記述しており、大人にも読み応えのあるシリーズとして興味をそそられる。【小学校中学年から】 (杉田)

文学

『森のなかまたち

極東ロシア・アムールの動物たち』



フセーヴォロド
P. シソーエフ／著
岡田和也／訳
森田あずみ／絵
未知谷
2011年5月

『ツキノワグマ物語』に続くシリーズ2冊目。シリーズ名にあるとおり、アムール河流域に生きる動物たちの物語 16 編を収める。ヒグマ、オオカミからサケ（鮭）まで登場し、過酷な自然の中での暮らしを描く。それぞれに名前を与えられるなどしてはいるが、あくまでも野生動物として描かれていて、生きるために懸命な姿にはノンフィクションの感もある。装丁や活字からは対象年齢が高く見えるが、文章も読みやすく、『シートン動物記』などを愛読する子どもたちに薦めたい。【小学校高学年から】 (鈴木)

絵本

『みんなでせんたく』



フレデリック
・ステール／さく
たなか みえ／やく
福音館書店
2011年5月

天気の良い日曜日に、エレナはお人形と川辺に遊びに行く。するとそこへ動物たちが次々にやって来て、せんたくを始める。エレナも石けんとせんたく板をかりて、せんたくを始める。着ているものをすべて洗い、仕上げはみんなでおしゃべりが、聞こえてくるような絵本である。

ねずみの歌う“ながれる みずに おひさまきらきら、きょうは とびきりの せんたくび”の世界に大人も子どももいっしょに入って、楽しむ。【3、4歳から】 (小松)